

事業所名	グループホーム愛の郷笠岡 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 2月15日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、Ⅱ-A・Ⅱ-B-2級、介護支援専門員 B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>『老いても幸せに』をテーマに、『より快適に、より安全に暮らせるように』という家族や入居者の願いが実現するよう努めている。</p> <p>入居者一人ひとりの個性を尊重し、入居前と変わらぬ家庭的な生活が送れるように、細かい所にも行き届いたケアを目指している。</p> <p>このホームで暮らす入居者が「楽しい我が家」と呼べるように、家族との交流を重視し、「いつまでもここに住み続けたい」と感じてもらえるホームとなるよう環境を整えている。</p> <p>入居者の生活歴を把握し、入居者自身の生活リズム・生活ペースを大切にしている。入居者の能力を引き出して出来ることに挑戦してもらい、少しでも自立に繋がる支援を進めている。</p> <p>職員の中に音楽療法士がおり、ピアノ演奏等のミュージックセラピーを導入して、入居者の認知症軽減・進行防止に努力している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>スケジュールによる規制をせず、自由・気ままな生活を基本として、入居者のリズム・生活の流れを邪魔しないように心掛けている。</p> <p>季節の移り変わりが感じられる節目ごとの行事・催しを大切に、変化とメリハリがある生活が出来るように、適宜な刺激と安定をもたらす支援をしている。</p> <p>職員は自分自身の心身の安定にも留意し、声の大きさ・トーンに気を付けて入居者に語りかけ、職員の都合ではなく入居者のペースに合わせた支援を行い、入居者の精神の安定を図っている。</p> <p>職員は常に入居者の話を傾聴して見守り、孤独感を与えないように配慮している。また、入居者が共用空間の好きな場所で過ごせるよう、くつろぎの時間と空間が持てるように取り組んでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる動きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>「グループホーム愛の郷笠岡」は、県境に近い笠岡市西部郊外の国道そばの住宅地にある。笠岡湾が見渡せ、徒歩5分の所にはバス停があり、便利な場所に位置している。</p> <p>玄関には芝生、広い敷地には花壇があり、周りを見通しのよいフェンスで囲まれている。日常生活の継続として、散歩・洗濯物干し・菜園での手入れ等を行っている。隣接して新設された「小規模多機能ホーム」の方とも交流があり、訪問して一緒にゲームをする等、入居者の心理的な潤いにもなっている。</p> <p>職員は、自主評価・外部評価・家族の意見、研修生・ボランティアのレポート等をよく参照し、日々の自分たちのケアを振り返っており、入居者の満足度を求める統一した職員の意識がうかがえる。</p> <p>入居者一人ひとりの食事の量・形態について、具体的な配慮がある。お茶も数種類の中から入居者本人が選択でき、細部に行き届いた細かなケアが出来るように努力しており、入居者の笑顔と落ち着いた表情が印象的であった。</p> <p>2ユニットの職員が情報を共有し、緊急時には助け合っている。地域の総合医療機関笠岡第一病院と協力関係にあり、緊急時には何時でも対応してもらえ、医療機関との強い連携がある。</p> <p>町内・地域との交流を深めるように、ホームから地域へ出向くようにしており、管理者は小学校の授業に行きつて話をすることもある。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
隣接して、新しく小規模多機能の複合的高齢者施設が増設されている。地域に開かれたホームとして、管理者が小学校に行きつて話をするなど、ますます近隣・地域との連携を強化していき、名実共に地域の中心となり、地域に溶け込んだ信頼の厚いグループホームと成られる事を期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物への支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>生活の意義を感じてもらい、依存的な毎日にならないように、個々に生活歴・能力を把握し、入居者の自覚に合わせてゆっくりと出来ること等を問い掛けて相談し、本人の意思・意欲に沿った活動が出来るように取り組んでいる。</p> <p>個人的なことは居室で話し、掛かってきた電話は子機を部屋に持っていき、パッドや紙パンツは部屋の見えにくい場所に置く等、入居者のプライバシーを尊重し、保護するように努めている。</p> <p>居室には、ノックして許可を得てから入っている。新しい中にも礼節を大切に、慣れによるミスを起こさないように心掛けている。</p> <p>個人に関するデータは事務室で責任を持って保管し、個人情報の活用は家族の了解のもと慎重に取り扱うようにしている。面会名簿は個人別に綴られており、入居者・家族双方のプライバシーに配慮している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>ボランティア・研修生から、実習後レポートをもらうようにしており、部外者からの見方・意見を大事にし、自分たちの介護を色々な機会に振り返るようにしてケアサービスの向上に努めている。</p> <p>年2回、夜間と昼間を想定して職員・入居者一揃いの避難訓練を実施している。事ある時に備え、確実に安全に入居者・職員が避難できるように訓練している。</p> <p>職員は入居者をよく観察しており、重症化による転倒・転落の恐れを考慮して、昨年より手すりや居室入口に付け、事故防止の処置をとっている。また、感染症防止マニュアルを設定し、ノロウイルス対策に努めている。</p> <p>「エルダーサポート」の趣旨に則り、人生の先輩たる入居者を通して社会を学ぶ姿勢を職員は常に保ち、入居者の人間性を尊重する思いが感じられるケアに徹している。</p> <p>ヒヤリ・ハットを含め、些細なトラブルも事故報告書に記録し、苦情箱を活用してこれらの原因・内容を検討し、全職員に通知・共有して事故防止に努めている。</p>		